

荒廃した里山の除伐・枯損木の伐採で生活環境及び自然景観を取り戻した事例

事業名：里山林整備事業（鳥獣被害防止型）

市町名：熊野町

取組のきっかけ・経緯

・里山林において、手入れ不足による荒廃化や枯損木の倒木により景観が悪化するとともに、有害鳥獣が生息していることから地域住民より改善の要望があった。

今後の展開

・手入れ不足により荒廃化した里山林があることから、地域全体で景観の維持及び森林の保全に取り組み、平行して市街地周辺における鳥獣被害防止のためバッファゾーン整備を進めていく。

取組の内容

- ・事業主体：熊野町
- ・実施場所：熊野町石神、川角地区
- ・業務委託先：広島県森林組合連合会ほか
- ・業務量：0.8ha
- ・業務金額：5,123,800円
- ・業務期間：令和2年9月1日
～令和3年3月31日

取組後の感想

【良かった点】

- ・下刈り、枯損木等の処理・伐採を実施したことにより地域住民から景観が良くなったと聞いた。
- ・また、鳥獣被害防止効果により、一帯での被害が抑制された。

【整備後】



【整備後】



平成30年7月豪雨災害で被害を受けたゆるぎ観音 一帯の遊歩道や里山整備

事業名：特認事業（地域資源保全活用事業）

市町名：熊野町

取組のきっかけ・経緯

・ゆるぎ観音一帯は、熊野町の北西部に位置し、町の重要文化財に指定され、観音堂や摩崖仏など多くの文化財がある。また、当該地を起点とした遊歩道は緩やかな勾配であり、地元ボランティアによって、多くの利用者が気軽に森林と触れ合える里山散策コースが整備されており、古くから親しまれてきた。海田町境の赤穂峠からの眺望は広島市内市街地を一望でき、広島市内近郊の景観資源としても大変すぐれている。

・平成30年7月豪雨により、遊歩道が寸断される等の大規模な被害を受け、地元ボランティアが懸命に作業したが復旧のめどが立たない状況であった。

・地域資源を保ち、後世に残していくとともに、森林保全活動の重要性が認識されるよう、令和元年度から3か年計画で、県の「ひろしまの森づくり事業」を活用し、遊歩道や里山の整備に取り組んでいる。



取組の内容

- ・事業主体：ゆるぎ観音森づくり実行委員会
- ・実施場所：熊野町中溝地区
- ・業務委託先：(有)南崎建設ほか
- ・業務量：遊歩道整備L=400mほか
- ・業務金額：14,560,053円
- ・業務期間：令和2年9月1日～令和3年3月31日

今後の展開

- ・令和3年度も引き続き、遊歩道の整備や徐・間伐、枯損木の撤去を実施していく。
- ・事業完了後も、ゆるぎ観音森づくり実行委員会により、保全管理や清掃活動を実施し、町もウォーキングイベント等と連携して、森林保全に対する啓発活動を実施していく予定。



取組後の感想

【良かった点】

- ・遊歩道の整備や案内看板の補修・新設を行い、地元ボランティアにより植栽が行われるなど、地域資源を保つことができた。

【地元ボランティア活動状況】

